

今年度の設計競技は、「コモنزの再構築」をテーマとした。東北支部審査会は2024年7月8日(月)10:30~11:30に、審査委員5名によりオンラインで実施した。今年度の設計競技には15点の作品の応募があり、応募規程により最大5作品を支部入選として選出する必要があったことから、事前に各委員に作品データを共有したうえで、支部候補となるべき提案に対して各委員5点以内で事前投票を行った。

各委員の投票を集計した結果、No.1(1票)、No.2(5票)、No.4(2票)、No.5(3票)、No.7(4票)、No.9(2票)、No.10(1票)、No.12(2票)、No.13(2票)、No.14(1票)、No.15(1票)が得票したため、これらについて支部入選に値するか否かの協議を行った。まず、3票以上を獲得したNo.2、No.5、No.7の3作品を支部入選作品の候補とすることについて確認を行い、満場異議なく選出することにした。次に、得票1票以下の作品について、候補としないことを確認したうえで、得票2票の4作品について再度審査員で議論した。この結果、このうちNo.4とNo.9を支部入選作品として選出することとした。

支部入選の5作品は、水害で被災した町における災害との向き合い方(No.2)、放置竹林の整備を通じた居場所づくり(No.4)、木材の生産地と消費地の接続(No.5)、日本統治時代の台湾の風景や文化などの継承(No.7)、離島における資源サイクルと交流の場づくり(No.9)といった具合に、現実の社会課題に向き合うための空間の提案であり、優れた内容だった。選外の作品には、空間や場所を「共有」することのみに着眼したものが多く、選出された作品との差がみられた。